

# サシバのすめる森づくり

## 保全計画

豊田市は、2003年度から自然観察の森周辺に広がる里山環境の保全のために賃貸契約による土地の確保を進めています。この事業は「豊田市自然観察の森周辺地域整備事業」と呼ばれ、その基本計画において「サシバのすめる森づくり」を保全計画のテーマとして策定しました。サシバは里山環境を代表するタカの仲間だからです。



サシバ (福井強志氏 提供)

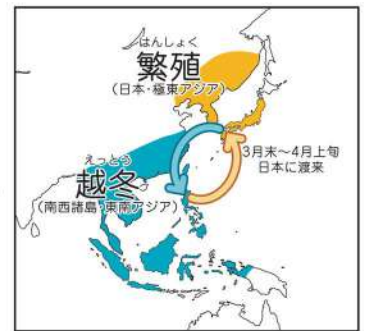


豊田市自然観察の森及び周辺地域

## サシバの生活



サシバの子育て



サシバの渡り

## 休耕田の水張り事業

サシバの餌であるカエル類を増やすために、2004年度から休耕田を整備し水田に水を張る冬期湛水の事業をはじめました。

2004年度は、ヨシの湿地2,183m<sup>2</sup>、2005年度は新池周辺休耕田3,148m<sup>2</sup>とカエルの谷休耕田2,403m<sup>2</sup>、2006年度はカエルの谷休耕田に2,497m<sup>2</sup>を追加し、2009年度には古瀬間の水田地帯の休耕田2,700m<sup>2</sup>を加え、合計12,931m<sup>2</sup>整備しました。



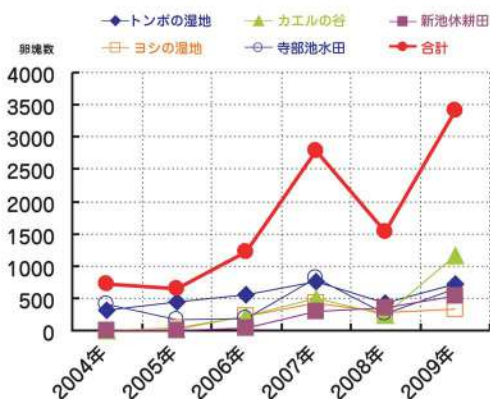
ニホンアカガエル卵塊数調査エリア



休耕田の草刈りの様子

## ニホンアカガエルの卵塊数変化

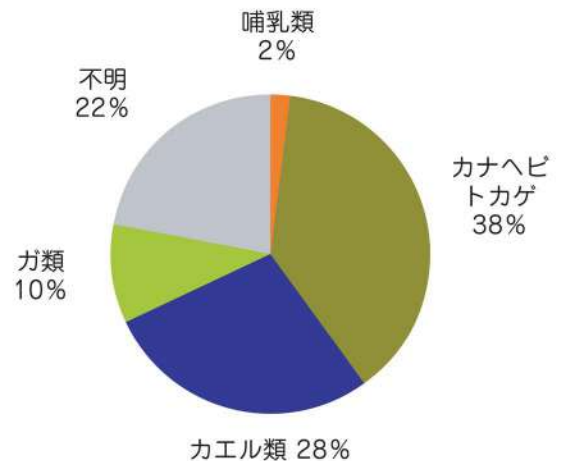
水張り休耕田によるサシバの餌量の変化を知る指標のひとつとしてニホンアカガエルの卵塊を数えることとしました。卵塊の合計では、2004年は727個、2005年は645個、2006年は1,223個、2007年は2,777個、2008年は1,528個、2009年は3,404個であり増加傾向にあります。



成体(上)と卵塊(下)

## 給餌内容

爬虫類や両生類を中心に、里山に生息する多様な小動物をエサとして子育てしています。

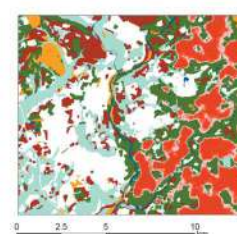


\* グラフは、豊田市内で繁殖した巣に50回運んだエサの種類と割合です。

## サシバの生息適地について

\* 開発や谷津田の減少で約30年間でサシバの生息適地が大幅に減少しました。

1970年代の豊田市におけるサシバの生息適地推定図



2008年の豊田市におけるサシバの生息適地推定図

